

## [第4号議案]

## 「防災塾・だるま」令和3年度(2021年度)活動計画

### 1. 主催・共催事業

#### 1) 防災塾・だるま「定例会」及び「防災まちづくり談義の会」開催・運営・・・(継続)

##### 【2021年度方針】

防災塾・だるま活動方針に基づき、4つの防災サロンを主体として、意図的、計画的に開催し、研修の深化と普及、社会貢献を目指す。

#### 2) 「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」の開催・・・(継続)

##### 【2021年度方針】

大学との連携を重視し、リモート併用など新しい時代に対応し、防災塾・だるまの新会員獲得も目指す講座の開催を目指す。

#### 3) だるま HP の維持・管理・・・(継続)

##### 【2021年度方針】

会員への情報発信、情報共有をわかりやすく、効率的に行うとともに外部からの閲覧者、参加者の拡大をめざす。

#### 4) J-DAGなどの普及・レベルアップ・・・(継続)

#### 5) だるま防災教育資料の編集・管理・講師育成・・・(継続)・

3BWG(Bousai Big-bang Working Group)活動・複合災害に関する資料作成(災害時における感染症対策マニュアル等)

##### 【2021年度方針】

2020年度は、「COVID-19 禍の避難所運営」Working Group として、有志による活動を行い、「提案集」をまとめるなど、一定の成果があったが、防災塾・だるまとして、より組織的、計画的な活動の必要性も浮上した。

そこで、2021年度は、規約の改訂も行い、防災の観点ごとに「防災サロン」を構築し、会員参画型で運営していくことを目指す。

#### 6) テーマ別に委員会などを組織して取り組む活動・・・(継続)・防災・減災に関する意見提案・地域防災の協力活動(協力事業)・学校防災への協力講座(協力事業)・会員向け学習会の開催・防災活動団体との交流

##### 【2021年度方針】

5)と同様に、「防災サロン」の活動に取り込み、防災塾・だるま活動方針に基づいて、意図的、計画的に取り組むようにする。

#### 7) 「神奈川大学防災フェア」等大学関係のイベントがあった場合 参加協力(継続)

#### 8) 「かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク」への参加協力・・・(継続)

### 2. 参加・見学など

#### 1) 被災地から学ぶ(神戸・東北・広島・熊本など)

#### 2) 防災ギャザリングへの参加

#### 3) その他

以下に「2021年度防災塾・だるま活動方針・活動計画」としてまとめ、共通理解するものとする。

# 第一章 2021年度 防災塾・だるま 年間活動方針(案)

## 1 目的及び事業(規約より)

目的	1 あらゆる防災活動を通じて <u>会員相互の防災力向上</u> を図る。 2 防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築する。 3 <u>地域社会の防災まちづくりに貢献</u> する。
事業	(1) 防災まちづくりに関する情報の収集及び調査研究 (2) 会員相互の防災まちづくりに関する知識向上のための <u>情報交換会又は意見交換会</u> の開催 (3) <u>防災まちづくりに関する講座またはイベント等</u> の開催 (4) 他の機関・団体等の防災まちづくりに関するイベント等への <u>支援</u> 、又は共同企画並びに運営等 (5) 防災まちづくりに関する調査研究結果等の地域及び行政等への <u>提言</u> (6) その他、本会の目的達成のために必要な事項

## 2 これまでの成果と課題および本年度の重点取組課題

成果	(1) 180回を超える「防災まちづくり談義の会」の開催による広範な防災知識の共有と発信。 (2) 市民、研究者、行政、政治、学校関係等との広範な人的ネットワークの構築。 (3) 多様な組織との連携や支援活動の積み上げ。
課題	(1) 地域社会(地区)における、自助、共助の未熟と脆弱性。それを支援すべき公助側の縦割りによる連携不足。自助、共助に手を差し伸べる支援と連携不足状況を改善するための、具体的啓発や提言。 (2) コロナ禍や高齢化によるオンラインやスマホ化への遅れ、会員の情報交換や会議参加者の減少。 (3) 「阪神淡路大震災四半世紀」をテーマに年間活動計画を立てたが、災害状況もあり、計画と異なった。

## 3 本年度重点テーマと重点取組項目及び取組方針

2021年度 テーマ	災害克服に向けて実現したい自助・共助・公助連携・新課題対応力の抜本的強化 ～東日本大震災10年、阪神淡路大震災四半世紀、関東大震災百年、最近の風水害や複合災害の教訓は生かされ、対策は実現されているか？新たな災害課題も視野に、自助、共助、公助統合による防災・減災力の抜本的改善強化を展望する～
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 4 防災塾・だるまサロン活動と「防災まちづくり談義の会」

防災サロン	テーマ	アクションプラン	担当
A 自助力 向上サロン	自分の命は自分で守れるように、基礎的な防災知識と技をわかりやすくまとめる。	『自助の取り組み例』を検証し、より優先順位をつけて、分かりやすい資料を作成。	◎田中栄 ○長嶋
B 共助力 向上サロン	平常時 発災時 避難所運営に関する実践に役立つ共助の取り組みの構築を目指す。	各メンバーが自分の地域の状況を発表して、共通に利用できかつ地域の特性やリスクを反映したマニュアルを作成し、訓練を実施する。」	◎ 山 田 ○ 増田
C 公助連携力 向上サロン	自助・共助・公助の統合構想 自助力・共助力、公助力連携による「防災まちづくり」推進体制の再構築。法律・条例改訂への提言検討。	災害への脆弱性となる「地域社会の様々な乖離」の克服。自助力、共助力を向上させるために、公助との連携構造を抜本的に検討。法律、条例等によるルール化も視野に。	◎ 鷺 山 ○田中喜
D 時事防災 課題サロン	パンデミック・温暖化等地球規模の課題を研究し、解決(SDGs)に向けた提言を目指す。	SDGsの観点で、各人がSpecialty・知見を活かしながら、テーマの抽出と検討を行い、解決・発信すべき事項を探し出す。	◎ 樋 口 ○

## 5 取組事業と検討課題

項目(規約より)	取組事業・検討課題(担当)
調査研究・提言 意見交換	・自助、共助、公助連携、新課題の4観点と相互の関連を分析し、だるまとしての総合化を提言。 ・4サロンによる個別責任運営と、学び、発信、ネットワーク構築の場としての「防災まちづくり談義の会」 ・ファシリテーションの理念と技法を「防災まちづくり」推進のツールとして防災塾・だるま運営にも活用。
地域・他機関との 連携活動	・HPによる発信、J-DAG(片山・田中栄) 防災まちづくり養成講座(高松 荏本 鷺山) ・神奈川大学大規模災害対策連続講座への協力(荏本・鷺山) ・他機関支援・共催するかながわ人と智や地域の防災・減災活動との連携(荏本 鷺山 山田 杉原)
会員間の連携と 組織強化	・HP 発信の充実(樋口・増田)、オンライン環境向上、便りの発行等の情報共有検討。(鷺山) ・会員がそれぞれの特徴を活かし、会員を増やす方策、特に若い人を糾合する企画の検討。( )

## 第二章 2021年度防災塾・だるま年間活動計画と推進組織

### 1 年間活動計画:

月	日時	定例会・役員会	審議内容	役員会 定例会議事
4月	16日 (金)	防災まちづくり談義の会 定例会 防災サロン準備会	地学防災講座1(鷺山)「日本列島の誕生と災害」 総会資料確認	山田 鷺山
5月	28日 (金)	講演会 総会 防災サロン	地学防災講座2(鷺山)「神奈川大地誕生と災害」 「本年度アクション・談義の会計画」 サロン別顔合わせ協議 7月談義の会(Cサロン)計画・チラシ決定	役員会
6月	10日 (火)	役員会	9月談議の会(Aサロン) 実施計画・チラシ審議 神奈川大学連携講座審議 申し込み提出	Dサロン
7月	27日 (火)	定例会 防災まちづくり談義の会(Cサロン) 防災サロン	C「公助連携力向上談義の会」 9月談議の会(Aサロン)実施計画・チラシ・決定	Dサロン
8月		役員会	11月防談義の会(Bサロン)実施計画・チラシ審議 大学との連携講座支援計画 審議決定	Cサロン
9月	17日 (金)	定例会 防災まちづくり談義の会(Aサロン) 防災サロン	11月防談義の会(Bサロン)実施計画・チラシ・決定 大学との連携講座広報	Cサロン
10月	8日 (木)	役員会 大学との連携講座実施	大学との連携講座支援計画詳細 2月談義の会(Dサロン)計画・チラシ審議	Aサロン
11月	19日 (金)	定例会 防災まちづくり談義の会(Bサロン) 防災サロン	B「共助力」向上談義の会 例. 災害直後の避難、安否確認・救出・消火態勢 2月談義の会(Dサロン)計画・チラシ決定	Aサロン
12月	17日 (金)	荏本先生記念講演 忘年会?	荏本先生記念講演・座談会「地域との連携」	
12月	10日 (木)	役員会	年度反省	Bサロン
1月	14日 (木)	役員会 ☆3 被災地見学?	年度反省と次年度計画・規約見直し等検討	
2月	18日 (金)	定例会 防災まちづくり談義の会(Dサロン) 防災サロン	本年度評価 次年度アクション・談義の会計画 各サロン年度反省 次年度アクションプラン検討	Bサロン
3月	11日 (木)	役員会	次年度計画案の決定	

### 2 組織

名誉塾長	荏本	塾長	鷺山(C連携・便り)	顧問	杉原、荒巻、上原、佐藤、中川、山本	
副塾長(総括)	山田(筆頭総括・B共助)	高松(大学連携講座)	樋口(HP・D時事)	田中栄(A自助)	片山(J-DAG等推進)	相談役 池田(渉外・講師選定) 中島(文書助言)
会計(総務)	早川(筆頭総務)	監査	高橋のりみ	山口章		
理事	田中(喜)	田中晃(記録編集)	増田(HPリモート会議設定 ML管理発送)	田中喜(広報・印刷会社対応)		

### 3 防災サロン ☆イベント推進班役割分担

防災まちづくり談義の会・イベント	◎ホスト ○副ホスト	4月サロン参加者 (ぜひ各班に参加ください)
A「自助」サロン	◎ 田中栄 ○ 長嶋	相原 荏本 釜石 田中晃
B「共助」サロン	◎ 山田 ○ 増田	磯野 稲垣 早川
C「公助連携」サロン	◎ 鷺山 ○ 田中喜	杉本 高松 山口
D「時事災害課題」サロン	◎ 樋口 ○	小林 佐々木 吉開
☆ 大学との連携講演会	◎ 高松 ○ 荏本	
☆ 施設等被災地見学会	◎ 早川	

### 第三章 各防災サロン年間アクションプラン

A「自助力向上」サロン 年間アクションプラン 2021 ～ 事前の減災対策 ～	
テーマ	自分の命は自分で守れるように、基礎的な防災知識と技をわかりやすくまとめる
班員 (敬称略)	◎ リーダー:田中栄治 ○副リーダー:長嶋ゆかり 記録係:田中晃 相原延光 釜石徹 荻本孝久 (以上4月準備会時点参加者)

#### 1 過去の災害からの教訓と課題解決の方向性

過去の災害からの教訓	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 阪神淡路大震災では、耐震不足の住宅の倒壊や家具の転倒で多くの人が犠牲になった。</li> <li>2. 東日本大震災では、多くの人が逃げ遅れて津波の犠牲になった。逃げ遅れの理由は、防潮堤の過信、津波ハザードマップを安心マップと思い込んでの行動、津波警報の問題点の認識、不足、正常性バイアス、津波避難場所の安全性の問題などによる。</li> <li>3. 激甚化してきた風水害により、毎年大勢の人が犠牲になっている。(高齢者の割合が大きい) 災害が予測される中での逃げ遅れによる被害の為、対策が急務である。</li> <li>4. 災害関連死も統計を取り出してから増えてきているので、避難の際に注意も必要となる</li> </ol>
現状と課題	過去の災害が教訓になっていない。特に大災害に見舞われていない地域では、防災意識が低い。防災に関心がない人たちをどう引き入れるか。
これまでの取り組み成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 防災塾・だるまの3BWG で家具の固定ほかをまとめた。</li> <li>(2) 談義の会で自助力強化のため講演会を実施(トイレ対策)</li> <li>(3) 『防災めぐり』を使用して各地域でワークショップを実施。(小田原市、南足柄市)</li> </ol>
2021 年度重点取組方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) コロナ禍のため、2021 年度は座学、ワークショップを中心にする。</li> <li>(2) 別紙、『自助の取り組み例』より優先順位をつけて、分かりやすい資料を作成</li> <li>(3) 自助力向上を啓発するために談義の会を実施の</li> </ol>

#### 2 4つの観点におけるアクションプラン

サロン開催後、下記内容を詰めていく。

4観点	他サロンとの協議事項	市民への啓発事項	政治・行政等への提言
A自助		耐震化促進・家具の転倒防止 災害時の在宅避難生活の推進	耐震化事業の提案
B共助	安否確認、地域の資源管理、 地域連携の耐震化		
C公助連携	地域と行政が連携して耐震化 を推進		
D時事防災			

#### 3 サロン主催「防災まちづくり談義の会」実施計画(1, 2の実現に向けた取組として)

6 月末までに提案の骨子確定、8 月初旬までに資料作成 随時 Zoom による会議、メールでの情報交換

日時	2021年 9月 17日 (金) 役員会提案 6月 定例会提案 7月			
目的(学びたい・発信したこと)	首都直下地震に備える —命を守り生き延びるための提案— (仮称) 地震被害軽減のために、耐震化・家具の転倒防止で安全な自宅で避難生活を送る			
テーマ講師	田中栄治			
内容(講師への依頼の骨子)				
分担	講師交渉・進行 チラシ原案	実施計画 チラシレイアウト印刷版	講師依頼書 記録・HP原稿	会場設営

## B「共助力向上」サロン 年間アクションプラン2021

テーマ	平常時 発災時 避難所運営に関する実践に役立つ共助の取り組みの構築を目指す。
班員	◎ホスト:山田 ○副ホスト:増田 稲垣 早川 磯野 (以上4月準備会時点参加者)

### 1 過去の災害からの教訓と課題解決の方向性

過去の災害からの教訓	[1] 今までは発災時の安否確認や要援護者の救出などについてもマニュアルや訓練が充分ではなかった。訓練に高齢者だけでなく若い世代の参加を促せるようにする工夫が必要。 [2] 地域防災拠点の会議や訓練を学校や福祉関係者参加を増やして実施している地域が少ない。
現状と課題	研究を進めながら、市民の立場で提言出来ることを探る。
これまでの取り組み成果	[1] 新型コロナウイルスの感染拡大などの状況での避難所運営など複合災害についての資料なども「防災塾・だるま」では作成してきたので現状に合わせて活用していく。横浜市旭区で実践している稲垣氏作成資料も参考にしていく。
2021 年度重点取組方針	[1] 役員以外にたくさんの会員が気軽に参加できる体制をつくり、各メンバーが自分の地域の状況を発表して共通に利用できかつ地域の特性やリスクを反映したマニュアルを作成し訓練を実施する。」

### 2 4つの観点におけるアクションプラン (テーマ検討を進める中で、A～Cグループとの協働の可能性も)

4観点	他サロンとの協議事項	市民への啓発事項	政治・行政等への提言
A自助	自助を充実させるには共助、自治会からの呼びかけが大事。		
B共助	自助を促す共助の活動を研究し提案する。地域拠点の充実を提案し学校防災の連携をはかっていく。	先進的なマニュアルの構築	実践的防災訓練実施の呼びかけ
C公助連携	学校との連携。地域防災拠点に充実をはかる。		
D時事防災	複合災害の対処を共に考える。」		

### 3 サロン主催「防災まちづくり談義の会」実施計画(1, 2の実現に向けた取組として)

日時	2021年11月19(金) 役員会提案9月 定例会提案 10月
目的 (学びたい・発信したこと)	メンバーの住む各地域の災害リスクの課題をそれぞれ資料にまとめ共通の対策ができるマニュアルを構築する。津波(山田) 地震(稲垣)水害(早川) 土砂災害(増田)避難所(磯野)
テーマ 講師	災害時に住民の命を救えることのできる実践的共助の取り組みについて講義できる地域防災取り組みに詳しい 講師を検討していく。
内容 (講師への依頼の骨子)	B サロン班メンバーの作成してきた自分たちの地域の取り組みの計画を専門家として評価・精査した上で先進的などこの地域でも共通して取り組める共助もあり方を講義していただく。
分担	講師交渉・進行 (山田) 実施計画 (稲垣) (磯野) 講師依頼書 (山田) 会場設営(早川) チラシ原案 (増田) チラシレイアウト印刷版 記録・HP原稿 (増田)



## C「公助連携力向上」サロン 年間アクションプラン2021

テーマ	東日本大震災の教訓を生かした防災まちづくりの具体像 自助・共助・公助を統合する防災地区を明確にした連携の構築を実現する方策の研究
班員	◎ホスト 鷲山龍太郎 ○副ホスト 田中喜世美 山口章 高松清美 杉本和子 (以上4月準備会時点参加者)

### 1 過去の災害からの教訓と課題解決の方向性

過去の災害からの教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去のどの災害においても、災害は、個人と家庭の被害として起き、生活圏の地域の中で起きる。地域防災の脆弱さ、学校等公助と共助組織との事前からの連携不足が地域の壊滅につながった事例もあった。災害後の復興においても、住民と公助のコミュニケーション不足があり、巨大な防潮堤の中の広大な更地等疑問の残る対策に巨額を投じている東北沿岸の事例もある。</li> <li>また、阪神淡路大震災、東日本大震災その他の災害においても、地域住民が災害リスクや防災行動を理解していなかったという「防災教育不備」の問題が生死を左右している。</li> </ul>
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の教訓を受けて、災害対策基本法改定(H25)によって「地区防災計画」を策定、地域防災計画に提案できることとなったが、「地区」の定義は曖昧であり、行政がその策定を支援することにははっていない。</li> <li>自助力、共助力を向上するための体制づくりと、住民への防災教育は、この地区防災計画の策定と、それを策定する地域組織の継続的な活動、支援、コーディネートする行政(学校含む)の取組が必要。</li> </ul>
これまでの成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>石巻市立荒浜小学校では、事前に地域住民と公助との協議で、遠い避難所場所から小学校を避難場所に昇格させたことにより、登校していた児童と避難してきた住民の命が助かっている。</li> <li>学校運営協議会等で地域、学校との共通理解により、連携して防災教育を推進。地域の防災マニュアルを共有してその連携が地域の自治会、マンション等の共助力を向上させ、それが「各家庭に防災教育を浸透させる」という自助力向上への学区ぐるみの取組が継続している事例がある。しかし、2018年の神奈川大学大規模災害対策シンポジウムでは、そうした取組が効果的なことはわかって、各地域への導入と広範な一般化の具体的方法が課題であることが議論された。</li> </ul>
2021年度活動方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>自助力・共助力、公助力をて連携、統合する方策を明らかにする。</li> <li>自治体等「地域」における、地区防災計画を策定すべき「地区」を検討する。</li> <li>「防災地区」を明確にして、策定運用する中で、総合的に自助力、共助力を向上させる施策を提言。</li> </ol>

### 2 4つの観点におけるアクションプラン

4観点	他サロンとの協議事項	市民への啓発事項	政治・行政等への提言
A自助	学校・行政がどのように連携すれば、自助力・共助力は高まっていくか、成功事例や要望を検討してほしい。	学校・行政は法律等に義務が定められ、職務として防災を行う「防災のプロ」たる立場なので遠慮なく意見交換していく。	「災害対策基本法」の改定で、地域防災計画における「地区」を規定する義務。自治体は、その地区における「地区防災計画」の策定と「防災まちづくり協議会」の組織を支援、コーディネートする義務ありとする。まずは横浜市震災条例改定か「防災まちづくり条例」新設を広範な専門家、市議会議員の皆様と検討したい。
B共助			
C公助連携			
D時事防災			

### 3 Cサロン主催「防災まちづくり談義の会」実施計画

#### 3 サロン主催「防災まちづくり談義の会」実施計画(1, 2の実現に向けた取組として)

日時	2021年 7月 27日(火) 14:00~15:00 役員会提案 5月(実施計画・依頼状・チラシ原案) 定例会(総会)提案 5月28日 HP公開 6月1日 印刷済チラシ配布6~7月 チラシ配布先 横浜市立学校 PTA 防災拠点運営委員長 市教委 その他
目的	東日本大震災の教訓を反映した防災まちづくり・防災教育の具体像を明らかにする
テーマ 講師	<b>東日本大震災10年 被災地の経験を「未災地」と共有し</b> 「災害を克服できる防災まちづくり・防災教育」の未来像を考える 講師 佐藤敏郎氏 小さな命の意味を考える会代表 (石巻市立大川小学校元保護者) 鷲山龍太郎 横浜市立北綱島小学校・太尾小学校元校長 コーディネーター 荻本孝久 氏 神奈川大学工学部教授
内容	東日本大震災10年。被災地の体験を未災地として共有するとともに、教訓を生かした防災まちづくりと防災教育の具体像を浮き彫りにする。防災まちづくり大賞「総務大臣賞」を受賞した太尾小学校の実践が、その教訓の具体化と言えるかを検証する。
分担	講師交渉・進行・施計画・講師依頼書 鷲山 会場設営 田中喜 高松 チラシ原案 鷲山 チラシレイアウト印刷版 田中喜 記録・HP原稿

## D「時事防災課題」サロン 年間アクションプラン2021

テーマ	パンデミック・温暖化等地球規模の課題を研究し、解決(SDGs)に向けた提言を目指す
班員	◎ ホスト:樋口 ○副ホスト:中島・池田 小林 佐々木 吉開 (以上4月準備会時点参加者)

### 1 過去の災害からの教訓と課題解決の方向性

過去の災害からの教訓	(1)新型コロナウイルスによるパンデミックは、各団体・個人が総力を上げて対策に取り組んでおり、ワクチンの接種も始まったが、未だ収束の目途が立っていない。 (2)温暖化によるとみられる気候変動に伴う自然災害の激甚化が続き、対策が喫緊の課題である。
現状と課題	上記課題に鑑み、点検や研究を進めながら、市民の立場で提言出来ることを探る。
これまでの取り組み成果	(1)防災塾・だるまのメンバー(3BWG)が、COVID-19 禍の避難所運営ガイドラインへの提言集をまとめた。 (2)豪雨災害についての学習と現地調査を行い、資料作成と発表会を行ってきた。
2021 年度重点取組方針	テーマの抽出(感染症・温暖化以外にも、ジェンダー・放射性廃棄物の処理等多数の課題あり)を開始。各人が調査したいテーマを掘り下げ、SDGs の確認をする中で、取り組むべき課題を探る。各の Specialty・知見を最大限に生かす。A～C サロンのメンバーとの交流・意見交換も行いたい。 <b>まず、SDGs の専門家の話を聞いてみる。</b>

### 2 4つの観点におけるアクションプラン (テーマ検討を進める中で、A～C グループとの協働の可能性も)

4観点	他サロンとの協議事項	市民への啓発事項	政治・行政等への提言
A自助			
B共助			
C公助連携			
D時事防災	A～C サロンにまたがるテーマ(感染症)について、調査結果をまとめたものを発信し、議論のきっかけとしたい。		

### 3 サロン主催「防災まちづくり談義の会」実施計画(1, 2の実現に向けた取組として)

日時	2021年2月 18 日( 金 ) 役員会提案 月(実施計画・依頼状・チラシ原案) 定例会提案 月(実施計画・印刷済チラシ配布)			
目的 (学びたい・発信したこと)	SDGs の観点で各人が、Specialty・知見を活かしながら、テーマの抽出と検討を行い、解決・発信すべき事項を探し出す。			
テーマ 講師				
内容 (講師への依頼の骨子)				
分担	講師交渉・進行 チラシ原案	実施計画 チラシレイアウト印刷版	講師依頼書 記録・HP原稿	会場設営